

令和6年度 四国本部高知例会・第97回 CPD セミナー・

公開講座・防災セミナー・修習技術者支援セミナー・見学会

四国本部 幹事
高知県支部 事務局長
松本 洋一
MATSUMOTO Yoichi



1. セミナーの概要

2024年11月8日（金）に、「高知会館」において、令和6年度 四国本部高知例会・第97回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー・修習技術者支援セミナー、9日（土）には見学会を開催しました。セミナーには、会員や修習技術者など80名の参加をいただきました。

表1 プログラム

1. 開会挨拶 (13:00~13:10)

(公社) 日本技術士会四国本部副本部長 河野一郎

2. 修習技術者支援セミナー (13:10~14:10)

“技術士制度説明”

佐川 徳和 氏(日本技術士会修習技術者支援委員会委員)

“修習技術者による事例発表”

片山 直道 氏 (株式会社 第一コンサルタンツ)

3. CPD セミナー (14:20~15:20)

“意思決定プロセスの品質を考える”

豊後 彰彦 氏 (東山建設株式会社 取締役副社長)

4. 公開講座(15:30~16:30)

“高知の公共交通を考える”

熊谷 靖彦 氏 (高知工科大学 名誉教授)

5. 防災セミナー(16:40~17:40)

“南海トラフと西南日本の地震活動を振り返る
～ 地域防災での技術士の皆様への期待～ ”

大村 誠 氏 (高知県立大学 名誉教授)

6. 懇親会(18:00~20:00)

開会挨拶・乾杯 四国本部事業副委員長 大西 誠一
中 締め 四国本部幹事 中根 久幸

7. 見学会(11月9日)

高知県立牧野植物園にて見学



河野副支部長の開会挨拶

2. 修習技術者支援セミナー

(公社) 日本技術士会修習技術者支援委員会委員の佐川徳和氏に、「技術士制度説明」について、引き続き(株)第一コンサルタンツの片山直道氏に、「修習技術者による事例発表」と題して講演していただきました。佐川委員からは、技術士制度の概要や企業の求める人材とエンジニアのキャリアプラン形成、試験制度などについて詳しく解説していただきました。

片山氏の発表は、四万十川に架かり文化的景観を構成する橋梁の補修設計に携わった事例を通じた修習に関するものでした。この事例では、鋼管杭橋脚の損傷原因の特定が課題であった。当初は腐食であると想定したが、変状からは異なる原因が示唆され、同様の事例もなかったため、河川・気象などの専門家にもアドバイスを求めた。その結果、橋脚下流に発生するカルマン渦による石の衝突が損傷原因であることを突き止めたとのこと。この業務は、原因究明を通じた専門的学識とコミュニケーション力、調査・対策工法の検討を通じた問題解決・マネジメント力など様々な資質向上に繋がったとの報告でした。

会場には、技術士を目指す若手技術者も多数参加しており、参考となる内容であったと思います。



佐川講師による技術士制度説明



豊後氏の講演



片山講師による事例発表

3. CPD セミナー

東山建設株式会社の豊後彰彦氏より「意思決定プロセスの品質を考える」と題してご講演をいただきました。

豊後氏は、高知県庁に永年にわたって勤務されていました。地方自治体の現場において、行政職員は「少ない予算を精一杯やりくりしているのに、住民に喜んでもらえない」との思いを持ち、住民は「いくら要求しても実施してくれない」との不満を持つという、地域における二律背反的問題に着目されています。この解決のためには、「道路という公共空間が生む価値は、行政と住民が共に担う」思考とそれに基づく新たなモデル形成が必要と述べられています。

実施事例として、地域の道路改良要望の計画づくりを官民で共に作り上げたワークショップについて、参加者の思いや意見を自由かつ十分に引き出すルールや雰囲気作りのノウハウなどを詳しく紹介していただきました。

「いつの日か、土木技術者が地域の価値を高める人として真にリスペクトされることを夢見る」との言葉は非常に印象に残りました。

4. 公開講座

高知工科大学 名誉教授の熊谷靖彦氏より「高知の公共交通を考える」と題してご講演をいただきました。

熊谷先生は、1971年に住友電気工業（株）に入社し VICS などの道路交通システム関連に従事され、ワシントン勤務などを経て2003年に高知工科大に着任されています。これまでに高知市地域公共交通あり方検討会委員長などを歴任されています。キャリアを踏まえた地域公共交通の課題、ライドシェアや自動運転の動向など最近の話題を提供していただきました。高知市における公共交通の問題としては、運転手不足、路面電車の老朽化、路面電車と路線バスの併走区間を挙げられました。私見として、路面電車は高知の顔であり、残すべきではないか。ただし維持管理や利用状況を考慮し一部の縮小はやむを得ないかもしれない。いずれにしても論理的な説明が必要であるとの考えを述べられました。身近で興味深い公共交通の課題や展望について、わかりやすくお話いただきました。



熊谷氏の講演

5. 防災セミナー

高知県立大学 名誉教授の大村誠氏より「南海トラフと西南日本の地震活動を振り返る～ 地域防災での技術士の皆様への期待～」と題してご講演をいただきました。

大村先生は、地球科学、リモートセンシング、災害看護、地域防災などの広い分野で教育・研究を永年に亘って続けられました。セミナーでは、これまでの研究活動を振り返って、近畿の活断層、ネパール・ヒマラヤの活断層での精密測地測量、室戸半島の地殻変動観測などの研究成果について紹介していただきました。

南海トラフ地震への備えについては、様々なテーマがあり、発災直後は災害死ゼロ、災害関連死ゼロを目指すこと。そのあと、さらに長期的な目標として、近未来の地域の状況に合わせて「身の丈に合った」復旧・復興が求められる。技術士に対しては、専門家としてのこれらの課題解決にあたるだけでなく、住民としても地域防災に貢献することへの期待を述べられました。今後の活動において示唆に富んだお話でした。



大村氏の講演

6. 懇親会

四国本部 大西事業副委員の乾杯で一足はやい忘年会を兼ねた懇親会を開会しました。講師も交えて51名の参加をいただき盛会となりました。四国本部の中根幹事の中締めで閉会となりました。



盛会となった懇親会

7. 見学会

11月9日(土)に見学会「らんまんコース」として高知県立牧野植物園を見学しました。

牧野植物園は、2023年に植物学者・牧野富太郎の人生をモデルにした朝の連続ドラマ「らんまん」の放映によって脚光を浴びました。

園内では、ドラマで紹介された「ムジナモ」や「スエコザサ」を実際に見ることができました。

館内の展示も充実しており、牧野博士の生涯を詳しく辿ることができました。参加者は5名と少なかつたものの、天候もよく充実した時間を過ごすことができました。



「らんまん」にちなんで「スエコザサ」をバックに



牧野植物園にて